



## 理事ご挨拶

大分大学女性研究者支援事業へのメッセージ

藤岡 利生 理事 (医療・研究担当)

私と本学の女性研究者サポート室との係わりは、平成21年9月に宮崎大学で開催された「第1回九州アイランド女性研究者支援シンポジウム」への参加に始まりました。この会で、すでに九州地区の多くの大学で「女性研究者支援モデル育成事業」が具体的かつ熱心に取り組まれていることに大きな刺激を受けました。News Letter 創刊号で羽野学長や松浦室長から紹介されているように、平成22年度の文部科学省科学技術振興調整費の採択により、本学に女性研究者サポート室(Female academics at Bundai ; FAB)が設置され、平成22年12月にはキックオフシンポジウムが盛況のうちに開催されました。

間もなく年度が改まり、将来の「輝く女性研究者」へのポ

テンシャルを持った新入学生を迎えようとしています。本事業の申請に熱心に取り組んで頂きましたワーキンググループの各位に心より感謝致します。

サポート室は大きく4つの事業(1. キャリアサポート 2. 環境サポート 3. 情報サポート 4. 地域連携サポート)を柱として運営される予定であり、この度はキャリアサポート事業の一環として研究奨励賞3件および学会参加賞3件が決定され、表彰式が挙行されました。受賞された先生方には心よりお祝いを申し上げますと共に今後の益々のご活躍を期待します。また、上記の4事業の順調な展開を心よりお慶び申し上げます。

また、本サポート室の立ち上げを機に、学内に「男女共同参画推進本部」が設置され、「推進宣言」が定められました。このように、本サポート室が今後の大分大学の男女共同参画の推進に大きく貢献されることを心より願っています。

## シンポジウム報告

大分大学は、平成22年12月16日に大分全日空ホテルオアシスタワーにおいて、「女性研究者支援育成キックオフ・シンポジウム～地域で育む『輝く女性研究者』支援～」を開催し、県内自治体、NPO、本学関係者、他大学関係者等、約160名が参加しました。はじめに、羽野忠学長の挨拶に続き、広瀬勝貞大分県知事(代読:二日市具正副知事)の来賓挨拶がありました。次いで板東久美子氏(文部科学省生涯学習政策局長)が「地域における男女共同参画の推進について」と題し、特別講演をされました。



▲板東局長

引き続き、「女性研究者支援モデル育成」事業の紹介として、塩満典子氏((独)科学技術振興機構科学技術振興調整費業務室長)による「事業の背景と現在の取組み状況」、松浦恵子大分大学女性研究者サポート室長による「大分大学の取組みについて」のプレゼンテーションがありました。次に、松浦恵子室長による進行の下、梅木利枝氏(大分県消費生活・男女共同参画プラザ所長)、前田明大分大学理事(総務担当)、塩満典子氏の3名のパネラーによるパネルディスカッションが行われました。

最後に、藤岡利生理事(医療・研究担当)が閉会の挨拶を述べ、有意義なキックオフ・シンポジウムを締めくくりました。



▲塩満室長

## 表彰式

女性研究者奨励賞の表彰および学会参加費助成の通知を行いました。

平成23年1月12日に本学 学長室において、羽野忠学長より女性研究者奨励賞の表彰式および学会参加費助成通知書の授与式が行われました。

この賞は、女性研究者に奨励賞や学会参加費を授与することにより、女性研究者の研究の質や意識の向上を目的とするもので、平成22年度公募において、奨励賞には8件、学会参加費には5件の応募がありました。

奨励賞は、最優秀賞を、医学部の中川幹子診療教授が、優秀賞を、工学部の和泉志津恵准教授および全学研究推進機構の福田昌子助教がそれぞれ受賞しました。

また、学会参加費は、工学部の和泉志津恵准教授、医学部の江崎かおり医員および全学研究推進機構の酒井久美子助教への助成が通知されました。

表彰式の後、羽野学長を囲んで今後の抱負や女性研究者支援への期待について意見が交わされました。



▲懇談会



▲記念撮影

# なぜ、いま女性研究者支援なのか？

## 女性研究者支援、その背景

天然資源の乏しい日本が国際社会の中で生き抜いていくためには、「人的資源」を元にした創造的で活力ある経済的発展を目指していかなければなりません。また、少子高齢化が急速に進展し、労働力人口減少が進む中において、社会保障制度を維持・向上させるためには、女性をはじめとする多様多様な人材を活用することによって、経済を活性化していくことが重要です。

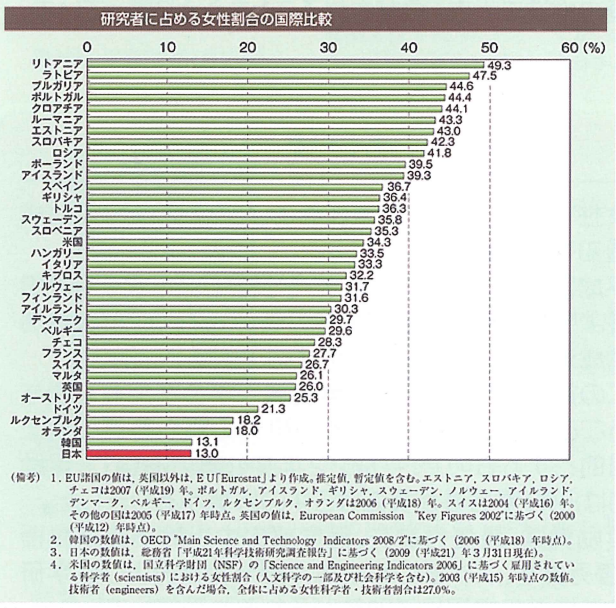
科学・技術分野においても、多様多様な個人が意欲と能力を発揮できる環境を形成することが重要であり、女性研究者がその能力を存分に発揮でき、評価されることは、男女共同参画の観点はもとより、日本が今後国際社会を生き抜いていくために不可欠です。そのためにも、女性研究者も男性研究者と同様に活躍できる状況でなければなりません。

## 国際社会における日本の現状

しかしながら日本における現状は、研究者数に占める女性の割合が欧米諸国に比べて低い状況にあります。研究者総数に占める女性の割合は13%と、調査対象国の中では最下位です(図1)。

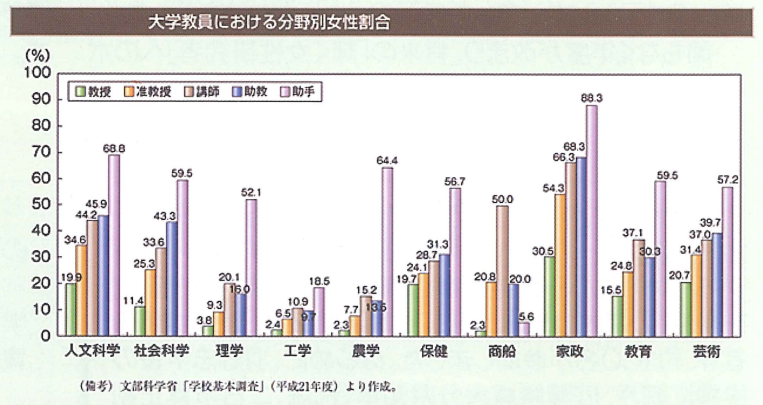
また内閣府「男女共同参画白書」資料によると、大学の分野別の女性教員の割合は、分野によって差はあるものの、全分野において、職階が上がるほど女性教員の割合が低くなっています。特に理工系は女性教員の割合そのものが低い状況です(図2)。

(図1) 研究者に占める女性割合の国際比較



(出展) 内閣府 男女共同参画白書 平成22年版 図表第1部第8章

(図2) 大学教員における分野別女性割合



(出展) 内閣府 男女共同参画白書 平成22年版 図表第1部第8章

## 自己啓発セミナー

「アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう」  
開催のお知らせ!!

本セミナーでは自分自身を振り返りながら、より良い人間関係づくりのためのコミュニケーションスキル(聴く、話す)を学びます。

### アサーティブとは、

- ◆一人ひとりが自分を大切に思える
  - ◆自分の権利も相手の権利も尊重できる
  - ◆多様な価値観の人と対等な関係を築ける
- …そんなコミュニケーション能力です。

**講師** 特定非営利法人 アサーティブジャパン代表理事 森田 汐生 氏

**日時** 平成23年3月17日(木) 13:30~15:30

**場所** 巨野原キャンパス 事務局棟 第2会議室 (募集人員40名程度)  
 挾間キャンパス(映像配信)多目的会議室 (募集人員10名程度)

**対象** 全教職員・全学生

**申込み** 女性研究者サポート室まで (電話、ファックス、Eメールで)

自己啓発セミナー  
アサーティブなコミュニケーションスキルを学ぼう

より良い人間関係  
多様な価値観、異なる意見・考え方の  
相手と向き合い、お互いを尊重し、  
共に成長していくためのスキルを学ぶ

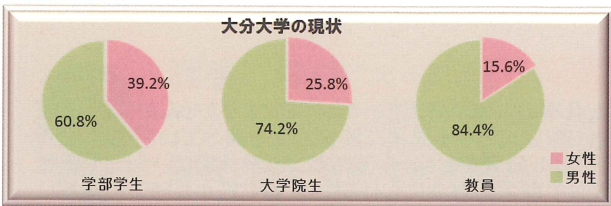
アサーティブとは...  
●一人ひとりが自分を大切に思える  
●自分の権利も相手の権利も尊重できる  
●多様な価値観の人と対等な関係を築ける  
...そんなコミュニケーション能力です。

主催 大分大学

# 大分大学の現状

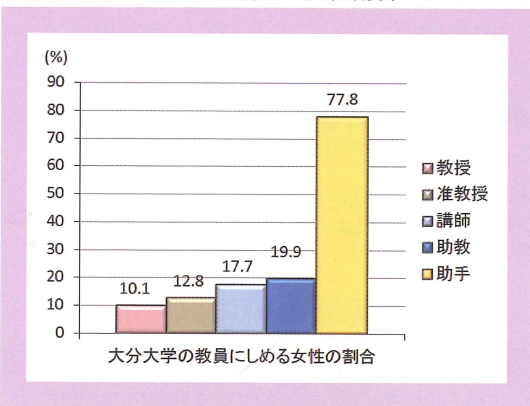
平成22年5月時点の本学の学部、大学院における女性割合は、学部学生39.2%、大学院生25.8%、教員で15.6%となっています(図3)。また、本学の教員にしめる女性割合(図4)は、全国の教員総数におけるその割合(図5)と比べると、上位の職階が低くなっています。

(図3)大分大学の現状



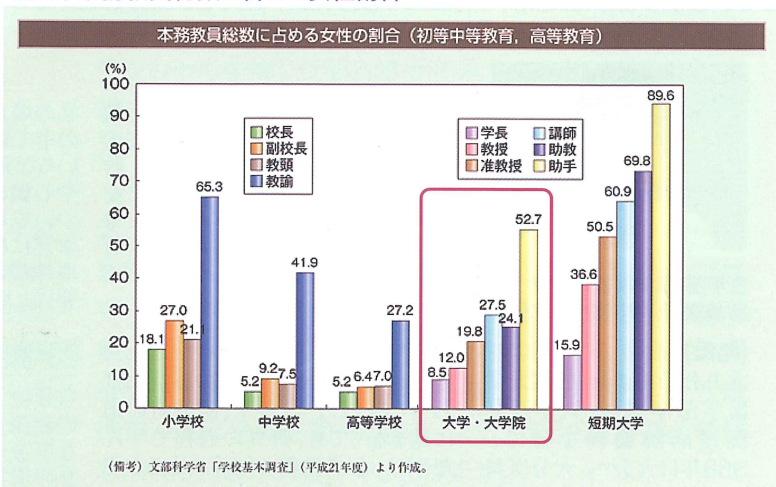
「国立大学法人 大分大学パフォーマンスレポート2010」より作成

(図4)本務教員総数に占める女性割合



「国立大学法人 大分大学パフォーマンスレポート2010」より作成

(図5)本務教員総数に占める女性割合



(備考) 文部科学省「学校基本調査」(平成21年度)より作成。

(出展) 内閣府 男女共同参画白書 平成22年版 図表第1部第8章

# 大分大学の目指すところ

女性教員の比率を20%に引き上げる。  
修士および博士課程学生の女性比率を35%以上にする。

## “研究者”って誰のこと?

いろいろな定義があります。  
大学の教員、公的研究機関や企業の研究員、博物館の学芸員、大学の研究生や博士課程の学生まで含む場合があります。  
文部科学省では「大学の課程を修了した者で特定の研究テーマを持って研究している者をいう」と定義されています(注1)。

注1: 研究者は、“大学(短期大学を除く。)の課程を修了した者(又はこれと同等以上の専門知識を有する者)で、特定の研究テーマを持って研究している者をいう”(文部科学省 平成19年版科学技術白書第2部第2章第1節)と定義されています。

研究者とは、



“研究”ってどういうことをするの?

ある物事について、実験、観察、調査、分析などを通して詳しく調べたり、深く考えたりして事実や真理を明らかにすることです。

“研究者”って白衣で実験している人だけじゃないのね?

そうです。フラスコや試験管を振っている人だけが研究者ではないのです。  
文系、理系問いません。研究成果は論文にまとめて発表しています。

女性研究者サポート室では、上記定義による「研究者」だけでなく、女性である、教員、大学院生、研究に関わる技術職員、研究補助員、看護師等すべての職員を支援すべき対象と考えています。(個々の支援内容によってその対象者を限定する場合があります)

## ■ホームページをリニューアルしました

サポート室のホームページをリニューアルしました。

- ブログを始めました(トップ画面からご覧ください)。  
名前はFABログです。サポート室メンバーが交代でいろいろなことを綴っていきます。
- サポート室の日々の活動記録を載せています。メニュー「FABについて」からご覧ください。
- 休憩室の閉室日をお知らせします(トップ画面をご覧ください)。



URL: <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

# 大分大学の輝く女性研究者(1)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在284名(教員90名、大学院生191名)(平成22年5月現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第1回目は、平成22年度女性枠研究者奨励賞受賞者のうち、医学部および工学部から1名ずつ紹介します。



医学部 臨床検査診断学  
診療教授 中川幹子さん

## 【略歴】

北九州市生まれ。熊本大学医学部卒業後、大学及び関連病院勤務を経て、S58年に大分へ。大分医科大学(現大分大学)内科第一及び臨床検査医学講座・検査部に勤務。

取材日 平成23年1月26日

## 仕事の内容は?

仕事の配分としては、診療50%、教育20%、研究20%、その他10%の比率です。循環器内科が専門で、診療は循環器系生理検査を主体に女性外来も担当しています。研究では不整脈や心電現象に関する臨床研究を行っています。

## 進路決定のきっかけは?

私の場合は、仕事の主体が研究というわけではありませんが、日常診療の中で疑問に感じたことや不思議に思ったことを調べていくうちに、いろいろな発見があり、研究がおもしろくなりました。具体的にいうと、不整脈や心臓の電気生理学的現象における性差、特に性ホルモンの役割についてです。幸運にも自分の興味ある研究テーマに巡り合えたこと、自分のいる職場環境が研究の遂行に最適だったことが、研究を続けられた最大の要因と思います。

## 後輩へのアドバイスは?

人生の一時期に、何らかの研究に携わってみましょう。将来、研究者の道に進まなくても、研究の過程で学んだ事は、必ず貴重な財産になると思います。

## 研究の魅力は?

自分の予想通りの研究結果が出れば嬉しいのは当然ですが、予想外の結果が出た時に、その理由を探っていく過程で、さらに新しい重要な事実を発見することがあります。私の場合は臨床研究ですので、その成果や研究の過程で習得した知識を、直接診療に役立てることが出来る場合もあり、少しでも医学の役に立っていると考えると、益々モチベーションが上がります。

## ワークライフバランスについて

仕事と家庭をうまく両立させるために、どちらも100%の完璧をめざさなくても良いという考えでやってきました。ただし、オンオフのメリハリをつけ、仕事の時は集中して密度濃くやるようにしています。家庭では手抜きだらけですが、必要最低限のことを短時間で効率良くこなすように努めています。また同僚や家族に助けてもらうことも多いと思いますが、感謝の気持ちを言葉に出して伝えることを心掛けています。



工学部  
知能情報システム工学科  
准教授 和泉志津恵さん

## 【略歴】

山口県下関生まれ。米国ワシントン大学大学院修士課程修了、広島大学大学院医学系研究科博士課程修了。研究所及び大学での勤務を経て、平成17年に大分大学工学部へ赴任、現在に至る。

取材日 平成23年2月14日

## 仕事の内容は?

教育では、学部生と大学院生の統計関連科目を担当しています。研究内容は、交通事故データの統計的解析、分子疫学研究における統計的手法の開発、発がん数理機構モデルの検証、統計教育の方法論を含みます。日本計量生物学会の理事、大分県交通安全協会の評議員などの社会活動も行っています。

## 進路決定のきっかけは?

社会において実用できる知識を学びたい思いから、学部では数理統計学の研究室を希望しました。卒業後に就職した研究所において、放射線影響を調査するプロジェクトに加わり、統計ソフトウェアのプログラミングを学び、上司やスタッフとの英会話に奮闘しました。その後、より高度な知識を活かした仕事ができたいと思い、退職して生物統計学の専門教育を受けました。目の前にある課題をひとつひとつ完了していくうちに、あまり迷うことなく、進路を素直に決めました。熱中できる研究や素晴らしい国内外の共同研究者にめぐり会えたことに、とても感謝しています。

## 後輩へのアドバイスは?

研究を始めるきっかけは、ちょっとした好奇心からかもしれません。何か興味があることを見つけたら、まず一步前へ進んでみましょう。一步進めばさらに次の一步が見えてくるような気がします。あなたも、科学の謎解きに参加してみませんか。

## 研究の魅力は?

統計科学は、科研費では総合領域の情報学に含まれ、工学などの他分野に広く応用できる学術分野です。観察研究や実験研究におけるデータを活用するために、統計的な道具を創り出し、新たな科学的証拠を見つけ出すことに、やりがいや魅力を感じています。

## ワークライフバランスについて

家族を含めた周りの人たちが私の仕事を理解し応援してくれることに、いつも感謝しています。研究に夢になると、家族のことが後回しになりがちかもしれません。家族と過ごす時間を大切に、自分と家族の健康を上手に管理することが、ワークライフバランスをとるうえで一番のカギだと思います。

## 編集後記

ニュースレターNo.2発行にあたり、どのような情報を発信すれば女性研究者支援を理解してもらえるかを考え、まずは日本そして大分大学の現状を知ってもらうことにしました。また、大分大学の各学部、各研究科の女性研究者を毎月紹介していきたいと思います。

大分大学 女性研究者サポート室

News Letter

編集・発行元 / 発行日 2011.3月

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 "FAB" Female academics at Bundai  
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039  
E-mail:fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/